

数理 (22) 略解

数理 1

- [1] $P(A \cap B) = 9/16, P(A \cap B \cap C) = 27/64$
- [2] $[1/2, 3/4]$
- [3] $[1/4, 3/4]$
- [4] $[3/8, 7/16]$

数理 2

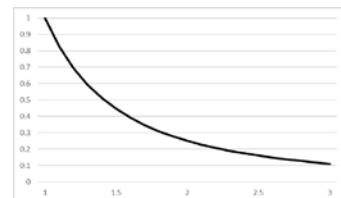
- [1] U, V の周辺累積分布関数はそれぞれ $F_1(u) = (u+1)/2, F_2(v) = (v+1)/2$ となる。 U, V はそれぞれ区間 $[-1, 1]$ 上の一様分布に従う。
- [2] U と V は互いに独立で、 (U, V) は正方形 $[-1, 1] \times [-1, 1]$ 上の一様分布に従う。
- [3] $P(U^2 + V^2 \leq 1) = \pi/4$
- [4] $P(U^2 - 2UV + V^2) = 3/4$
- [5] $E[V] = 0, V[V] = 5/18$ で、相関係数は $1/2$ である。

数理 3

- [1] $E[X] = V[X] = \lambda$
- [2] $E[\Lambda] = \frac{\alpha}{\beta}, V[\Lambda] = \frac{\alpha}{\beta^2}$
- [3] $P(X = k) = \binom{\alpha+k-1}{k} \left(\frac{\beta}{\beta+1}\right)^\alpha \left(\frac{1}{\beta+1}\right)^k$
- [4] $E[X] = \frac{\alpha}{\beta}, V[X] = \frac{\alpha}{\beta} \left(1 + \frac{1}{\beta}\right)$
- [5] 推定量は $\hat{\alpha} = \frac{\bar{X}^2}{S^2 - \bar{X}}, \hat{\beta} = \frac{\bar{X}}{S^2 - \bar{X}}$ であり、 $\hat{\alpha}, \hat{\beta} > 0$ となる条件は $S^2 - \bar{X} > 0$ である。

数理 4

- [1] X の確率密度関数は、 $x > 1$ の範囲で $f(x) = \frac{1}{\gamma} x^{-(1/\gamma)-1}$ であり、 $\gamma = 1$ のときの $f(x)$ の概形は右のようである。
- [2] 期待値は、 $0 < \gamma < 1$ では $E[X] = \frac{1}{1-\gamma}$ で、 $\gamma \geq 1$ では発散



する。分散は、 $0 < \gamma < 0.5$ では $V[X] = \frac{\gamma^2}{(1-2\gamma)(1-\gamma)^2}$ で、 $\gamma \geq 0.5$ では発散する。

[3] 最尤推定量は $\hat{\gamma} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \log X_i$ である。

[4] T はパラメータ（期待値）1 の指数分布に従う。

[5] $E[\hat{\gamma}] = \gamma$, $V[\hat{\gamma}] = \frac{\gamma^2}{n}$ 。

数理 5

[1] D_i は $N(\theta, 2\sigma^2)$ に従う。

[2] $v = \bar{\mu} + \frac{\theta}{2}$, $b_1 = \bar{\mu} - v = -\frac{\theta}{2}$, $b_2 = \bar{\mu} + \theta - v = \frac{\theta}{2}$, $a_i = \mu_i - v - b_1 = \mu_i - \bar{\mu}$ ($i = 1, \dots, n$)

[3] (a) 適切な検定統計量は $(S_B/\phi_B)/(S_E/\phi_E)$ で、帰無分布は自由度 (ϕ_B, ϕ_E) の F 分布。

(b) 適切な検定統計量は $(S_A/\phi_A)/(S_E/\phi_E)$ で、帰無分布は自由度 (ϕ_A, ϕ_E) の F 分布。

[4] μ_1 は未知であるため Y_1 から θ の情報は得られないことから、残りの $n-1$ 組のデータで検定を行えばよい。

[5] Y_1 を無視することはできない。たとえば Y_1 が Y_2, \dots, Y_n から非常に離れた値を取った場合には $\mu_1 \neq \mu_i$ ($i = 2, \dots, n$) と判断するのが合理的である。